

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 森の里小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 三橋 裕美

学校教育目標	学校経営の方針
<p>「自分で考え 判断し 行動する子の育成」</p> <p>【めざす児童像】 ◎かながえる子(最重要目標) ○おもいやる子 ○げんきな子</p> <p>【めざす学校像】 あいさついっぱい 笑顔いっぱい 森の里小学校</p>	<p>○教育基本法等関係諸法令並びに小学校学習指導要領・神奈川県教育ビジョン・厚木市教育大綱に基づいた学校経営を展開する。</p> <p>○児童・保護者・地域の実態を踏まえ、「地域とともにある学校」づくりをめざし、全教職員と保護者・地域の協働による学校運営が図られるような学校経営に努める。</p> <p>○児童が安心・安全に生活・学習できるように危機管理体制を確立した経営に努める。</p>

今年度の重点目標	
<p>A<主体的に学ぶ力の育成></p> <p>①「社会に開かれた教育課程」の追究 ②確かな学力の向上 ③道徳教育の充実 ④体力づくりの推進 ⑤クロームブック活用による授業づくりの推進 ⑥学校図書館の学習・情報センター化の推進 ⑦幼・保・小・中の連携B</p> <p>B<実践力の育成></p> <p>①自主的・実践的な集団活動を通じた、人間関係形成力の育成 ②児童の安全確保と安全教育の充実 ③縦割り活動の充実 ④音楽活動の充実</p>	<p>C<豊かな心と健やかな体の育成></p> <p>①個を大切にした支援教育の充実 ②インクルーシブ教育の理解と実践 ③きめ細かな児童指導の推進 ④健康教育と食育の推進 ⑤PDCAサイクルに即した学校評価の実施</p> <p>D<学校管理体制の確立></p> <p>①学校運営組織の確立と学校情報の発信 ②「働き方改革」の積極的な推進 ③危機管理体制の確立 ④予算、補助金の適切かつ効果的な活用 ⑤施設設備の管理</p>

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標の実現に向け、授業や体験活動を通して具体的に取り組む。	1・2・3	学校教育目標の児童、保護者、地域への認知度を高め、それを意識した体験活動の推進を行った。	学校教育目標に関しては、児童、保護者、地域での認知度は非常に高い数値を示した。今後も継続して、学校の方針を伝えていく。また、体験活動に関しては、コロナ禍でできなかったことが少しずつできるようになってきていることから、今後も積極的に進めていく。	今後も定期的に児童・保護者に向け、学校教育目標を提示していく。学校運営協議会においても、協働活動の推進について熟議を重ねることで体験活動の充実を図っていく。
「チーム森の里」として、子どもたちの笑顔のために質の高い教育実践に向けて取り組む。	1・2・3	学校経営方針を明確にし、学級担任並びに専科教員等が同じ意識で指導に当たれるようにした。	職員の所属する各担当グループごとに、様々な連携を行っている。校務支援システムの活用も定着してきているが、まだ不十分である。今後も、継続的に職員間の連携をとっていく。	学校経営方針具現化を徹底させるとともに、風通しの良い関係づくりに取り組んでいく。小規模校ならではの関係性を活用し、互いに高めあえる関係性の構築に努めていく。

基礎学力の定着のため、日々の授業を工夫し学力向上に努める。	1	学力向上グループを中心に、児童の課題を分析し、必要に応じた対応を進めた。	今年度いくつか具体的な新たな取組を実施してきたことで、意識の向上が図ることができた。教職員の授業力向上は、そのまま児童の基礎学力定着につながるため、今後さらなる研修等が必要だと感じる。	教職員の研修を充実させることにより、教材の充実、指導方法の工夫改善を行う。また、児童が進んで学習に取り組めるよう意識することで学力向上につなげる。
あいさつが進んでできる児童を育てる。	1・2・3	朝会で、挨拶の大切さを伝えたり、児童会を中心に挨拶運動をしたりすることで、挨拶に対する意識を高めた。	挨拶に関しては、毎年アンケート結果に対象ごとの違いがみられる。児童の満足感も大切にしつつ、周りからどのように思われているかを改めて伝えていく必要がある。	まずは、職員が進んで元気な挨拶をすることで、児童の意識を高めていく。地域の皆様にもご協力いただくことで、挨拶の大切さを伝えていく。
児童一人一人を大切に、誰にとっても楽しい学校生活となるように努める。	2	週に1回以上、全体で児童に関する情報共有を行い、その後必要に応じてケース会議を開いた。	児童一人一人を大切にしていこうということを学校全体で共有し、多くの職員で対応することができた。しかし、学校では対応が難しいケースも増えているため、他機関との連携を進めていく必要がある。	学校が楽しいと思える空間になるために、まず安心・安全な環境づくりを行う。新たに教育支援に係る会議を立ち上げ、児童の課題に対応していく。
縦割り活動の充実を図ることで、児童の自主自立を促す。	2	森っ子なかよしタイムや、縦割り清掃を充実させることにより、他者とのコミュニケーションの取り方を学び、自分を振り返る機会とする。	コロナ禍で縮小していた活動を、感染症対策を講じながら通常の形に戻してきた。そのことで、児童の意識にも変化が見られた。しかし、まだ制約を伴う活動も多いので、内容を含め検討する必要がある。	感染症対策と、児童会活動や清掃活動の両立を図るべく、めりはりをつけた活動を検討していく。自己肯定感を高めていくためにも、この活動を大切にしていこう。
学校内の活動について、積極的な情報発信に努める。	1・3	学校だより、学年だより、学校HPを活用することで、学校の情報を速やかに発信するようにした。	学校だよりでは、学校の大きな行事や校長の経営方針等を伝え、学年だよりや学級だよりでは、さらに細かい内容を発信してきた。学校HPに関しては今年度システムの変更からいくつかのご意見もいただいているので、今後検討したい。	学校だより、学年だより、学校HPを活用して情報発信に努めていく。学校HPについては、システムの変更に伴い、未だ具体的な活用方法が議論しきれていない部分があるので、段階的に検討を進めていく。
保護者や地域の声を学校教育に反映する。	1・2・3	学校運営協議会や、PTAの活動の充実にも努め、学校関係者による評価を充実させた。	地域コーディネーターとの連携を深め、学校運営協議会やPTA、また地域住民の方のご意見を多く聞くことができた。今後、活動内容に合わせて窓口を一本化できるように検討していく。	学校評価を活用しながら、学校運営協議会やPTAとも連携を深め、スピード感のある対応を心掛けていく。そのためにも相談しやすい体制づくりを検討する。
安全面への配慮を徹底する。	1・2・3	新型コロナウイルス感染拡大を最重要課題としながら、熱中症、交通事故などに関する連絡対応について、速やかに行った。	安全点検日に防犯ブザーのチェックをし、児童の意識を高めてきた。自転車乗車時のヘルメット着用に関しても、校外指導等で声掛けを行った。しかし、まだ不十分だと感じる。	新型コロナウイルスに対する対策に関して、市の方針に従いながら進める。また、交通安全や不審者対策など、児童の安全に対する意識を高めるために安全点検日などの活動を工夫していく。
教職員自ら、指導者としてふさわしい言動をとり、児童、保護者からの信頼を得る。	2・3	学校事故防止会議や毎週行われる打ち合わせ等の場で教育公務員としての必要な資質について指導を進めた。	学校事故防止会議や打ち合わせを通して、改めて教育公務員としての自覚を高めることができた。しかし、日々変わる現状の中、今後も継続して意識向上を図っていく必要がある。	教職員が常に自己研鑽できるような体制づくりに努める。会議の精選などを行い、時間を確保していくように努める。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校教育目標が多くの保護者や地域住民に浸透してきていることはとてもよい。安全面に関することとして、防犯ブザーの携行率の向上やヘルメットの着用率の向上が必要となってくる。自転車乗車時のヘルメット着用に関しては自治会等にも協力していただき、具体的な数字を挙げていく。学校HPに関して、実際に記事としてアップロードするためにはその前の確認作業が大切になってくることから、そういったことを整理し、有効活用していけるように検討していく。今年度は学校との協働活動が多く提案された。この流れを大切に、地域と保護者、そして学校をつなげていきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度も学校経営は概ね良好であった。新型コロナウイルスに対する感染症対策を徹底しつつも、活動の制限自体は少しずつ緩和され、たくさんの行事を行うことができた。保護者の皆様や地域住民との関りも増え、今後も地域とともにある学校として連携を深めていきたい。そのために、今後も学校経営方針の浸透に努めるとともに、積極的に地域の財を活用していきたい。